

校

医



第482号 平成30年9月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

## ご 報 告

左京支部長 東 道 伸二郎



京都市学校医会元副会長を務められました大久保雄二郎先生がこの7月1日にお亡くなりになりました。

先生は苦勞の割には認められることの少なかった時代の小児血液腫瘍学をご専門にさ

れ、大阪赤十字病院部長をはじめ勤務医生活を長く続けられました。左京医師会には昭和56年にB会員として所属され、学校医の目安となる地区医師会のA会員となられたのは平成6年でした。平成10年に学校医の定年制が施行されることとなり、先生は定年を迎えられた前任者と交代され平成10年の4月に岩倉南小学校の校医をお引き受けになりました。校医就任と同時に常任理事をお引き受けくださいました上、平成14年からの3年間は副会長の重責を担われ、平成17年3月に退任されております。左京支部長とされましては、出席者が少なく中止することが多かった左京支部会懇親会を、土曜日から日曜日に変更し、以後毎年支部会を開催されました。在任の7年間に30編もの記事を校医ニュースに書かれ、理事の心得をお教えてくださいましたが、先生は学校医会100周年記念誌に「まだ学校医のイロハも判らない私にとって最初からの執行部入りは戸惑いのみ多く、先輩の方たち、また若手気鋭の皆さんの後を追うことに懸命の思いで終始したように思います」と書かれておられます。さらに読みますと私たちが現在直面している様々な問題を指摘されておられます。以下に原文を引用いたします。

『短い間ではありましたが、その間にも学校医の業務にいくつかの変貌がありました。嘗て学校医の

仕事の多くを占めていた予防接種は個別接種に変更されて学校医の手を離れ、わずかに残っていたツベルクリン、BCGも対象が大幅に減り、平成18年度からは廃止されることになりました。それは小児の疾病構造が大きく様変わりしたためであることは言うまでもありません。その結果として学校医の役割でもっとも大きなものは、定期健康診断となりました。その健康診断について思いもかけぬ難問が生じました。小学校高学年および中学校の女生徒が健診時に肌着を脱ぐことを嫌がるという事態が起こり、それに同調した保護者が学校に抗議を申し入れるに至ったものです。このことに対しては学校医会としては適正な健診を行うためには脱衣が必須である旨を校長会との懇談会に際して強く申し入れをし、その後は概ねスムーズに運営されるようになったと思われま

す。学校医会としては以前から養護部会、市教委との懇談会を通じて相互の関連を深めてきましたが、羽場会長のときからさらに小・中学校長会とも定期的な懇談会を持つようになり、風通しが良くなったと感じておりました。

一方学校の教育現場も多くの問題を抱えております。「ゆとり教育」を謳って導入された週休2日制も、必ずしも児童の生活にゆとりを齎したとは言えず、またそこから派生したと言われる学力低下の是正のために、早くもこの制度の見直しを取りざたされようとしております。このようなことも含めて現在の義務教育の児童・生徒を取り巻く環境は年々悪化している様に思われます。学校の内外において、子供たちの安全地帯が極めて狭くなっています。登校拒否、家庭内暴力、学級崩壊、いじめ、そうして

子どもの自殺等々、従来の学校医の職務からは予想もされなかったことに対し、学校医としての7年間何の貢献もなしえなかったことに内心忸怩たる想いが致します。これからもこのような事態が早急に改善されるとは思えませんが、少しずつでも明るい方向性が見つかると、関係者の叡智を傾けて頂きたいものです。

学校医の仕事は昔と比べると或る面では少なくなってきたかもしれませんが、反面非常に難しい事柄に

向き合わねばならなくなってきました。大変なご苦労ですが、学校医の先生方の一層のご活躍と京都市学校医会の更なる発展を祈念いたします。』

先生には学校医会勤続10周年の表彰もなされぬままではありますが、何十年分もの重要な仕事をされております。先生は、そんなん良いよ、とおっしゃりながら、御生前にこのような遺言を私たちに残してくださったのだと、思わず記念誌を読み返し先生の訃報を会員皆様に報告させていただきました。

## 第69回指定都市学校保健協議会 課題別協議会 第3分科会（心の健康）に参加して

川岡東小学校 山内英子

第3分科会では「子どもの豊かな心を育てるための教育活動と支援のあり方」が協議主題でした。子どもの豊かな心を育てるための教育活動の推進と、心の健康課題を解決するための支援体制のあり方を協議の視点として、5ヶ所の小中学校、高等学校から提言がなされ協議されました。

始めに札幌市立陵北中学校栄養教諭、運上央子氏が「食」はみんなを笑顔にする魔法～健やかで心豊かな子どもの育成のための栄養教諭の取組～」についてお話されました。

行事食、地場産物の活用、和食(だし)などにポイントをおき、「食」を通して多くの人と関わることにより、人間性が豊かになっていくと考え指導しています。卒業生の漢字1文字で表現した給食に対する思いでは「楽」「愛」「感謝」「笑」「美」「食」が目立ちました。

2題目は前 仙台市高砂中学校養護教諭、伊藤香奈氏の「東日本大震災後の心のケア～養護教諭の役割を中心に～」について。2011年の震災にて自宅全壊、半壊、床上浸水の被害に会い、生徒は全員無事だったものの、親、兄弟、親族、大事なペットを亡くした生徒は複数ありました。震災後のこころのケアの基本姿勢は『ストレス反応を出さないようにするのではなく、安心して出せる環境を作ってあげること』でした。震災発生当日から、避難所での生活。学校再開後も中・長期にわたって心のケアをおこなっていきました。

3題目は浜松市立平山小学校養護教諭、石田真由美氏による「自己肯定感、人間関係能力を高める心

の健康づくりの推進～「チーム平山」の取り組み～」です。手立ては二つ

- (1) 教職員と連携し、構成的グループエンカウンター、命の授業を計画的に実施する。
- (2) 家庭・地域と連携し、PTA講演会、学校保健週間を開催する。

継続した取り組みにより、子どもたちは学校行事、縦割り活動等、普段の生活の中でも学年を越え、良いところを見つけ、認め、褒め合う姿が多くなりました。児童1人1人にスポットをあて、褒めて伸ばしていこうとする教師の意識改革にもつながりました。

4題目は堺市三原台中学校生徒指導主事、藤井清司氏の「子どもの生を輝かせるオール三原台中学校区の「みんなく」。「不登校生徒の生体リズム(睡眠)」の乱れが脳機能低下をもたらす、その結果不登校をはじめとする諸問題が起きているという熊本大名誉教授の三池輝久医師の研究から、子どもたちの睡眠への意識を高め生活習慣を改善する「みんなく」の実施に取り組みました。○校内のみんなく ○みんなくリーダー研修 ○みんなく地域連携組織を3つの柱に睡眠改善を促しました。結果登校改善がみられました。

5題目は広島市立広島工業高等学校養護教諭 新開美和子氏の「コミュニケーション能力をキーワードに取り組み～定時制高校の実践～」でありました。

健やかで心の豊かな子どもが育つように、工夫した種々の取組がなされている様子を知ることができました。

# 第69回指定都市学校保健協議会 課題別協 第4分科会「地域保健」報告

福西小学校医 奥村正治

この第4分科会は、学校・家庭・地域の連携協働による学校保健活動となっているが、毎回地域が影をひそめるような発表が多いのだが、本年は違っていた。

5つの発題があるので、列挙しておきます。

- ・ヘルス・プロモーション・スクールの実現に向けて～学校・家庭・地域の人々がかかわり合いながら健康づくりに取り組める学級～
- ・相模原市立桂北小学校における実践研究について
- ・学校薬剤師が行なう薬物乱用防止教育の役割～身近な医薬品の乱用を防ぐために～
- ・「いのち いちばん」～学校・家庭・地域の連携を密にして～
- ・家庭生活や学校生活に関心をもち健康によい生活を実践し続ける子どもの育成  
校長先生2名，学校歯科医1名，学校薬剤師1名，

研修主任の先生1名の発表で、養護の先生の発表はこの分科会では1人もなかった。

偶然でもあったのだが、大阪の先生の発表で、校舎の建てなおしに遭遇し、運動場は狭くなるし、校門までが、通用門と入れかわり、交通量の多い道路に面した場所が臨時的校門になった為、子どものいのちを守るという観点から地域の人達の応援を得て、特に通学時、子どもの安全を守ったという話題でした。

通学安全が主題になるので、地域の方々も参加しやすくなる特別委員会が設置されたりし、冒頭でも書きましたが、地域の方々も、大勢応援にこられ、子どもの通学安全を守ったという話題でした。

地域の方々を巻き添えにする話題であれば、三者協働は成り立つが、つい、学校・家庭どまりの話題が多いのは、己むを得ずでしょうか？

---

---

## 京都市学校医会研修会

### 発達症と不登校—自閉症スペクトラム症を中心に—

精神研究班 西京高等学校医 杉本英造

平成30年度の学校医会研修会を、6月30日：こどもみらい館にて京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系:十一元三教授に上記題名で講演していただきました。十一先生には平成28年度 京都市学校保健会 健康教育シンポジウム（28年10月18日）でも「子供の心の健康問題の理解と対応～発達症の視点から～」の演題で講演いただいています。

不登校の背景として、体の病気（内科・小児科・婦人科疾患など）の症状の一部として出現、心因性疾患（ストレスなど心理的な原因）により発病、脳（もともとの気質・素因、脳の病変、薬など）の影響により発病する3つの視点からのアプローチを提唱されています。このうち「脳の領域」に発達特性が含まれ、先生が扱われた100名の不登校の背景にあるメンタルヘルスのうち80%が自閉症スペクトラム症(ASD)であったとのことは見過ごせません。学校医会：精神衛生研究会が行っている「心のワンポイント相談事業」でも、これまでに57件の相談を受け、自閉症スペクトラム：21%、学習障害：25%、

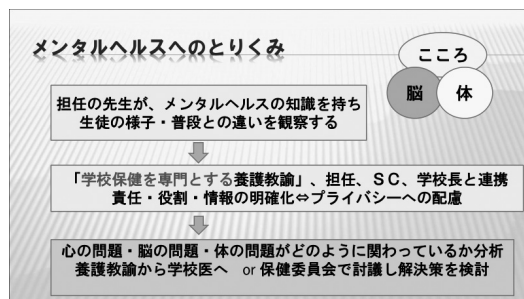
ADHD：19%、助言のみ：19%、そのほか：16%（精神障害、知能障害、発育障害、不安神経症など）でした。ここでも80%近くが発達症を含むなんらかの支援を必要としていましたので、不登校を扱う上で「発達症を理解すること」は重要なカギとなります。

広汎性発達障害（PDD:Pervasive developmental disorder）の中で、特定不能の広汎性発達障害（PDD-NOS）は知的発達が比較的保たれ、自閉性の目立ちやすさが少ないため、障害に気づかれずグレーゾーンとされ見過ごされやすいので、この群が対人恐怖発現しやすく、うつになりやすいので注意を要するとのことでした。ASDの基本特性として、①対人相互性の低発達は社会的関係に影響：養育者との相互作用↓、親和感形成↓、母子分離↓、仲間形成↓②同一性へのこだわりは生活行動・学業・業務に影響：同じ事柄への固執・没頭・反復。これに伴う特性、例えば図形は覚えられるのに人の顔は覚えられない認知機能のアンバランスが加わり、社会性・コミュニケーション能力の低下につながります。

注意欠如・多動症（ADHD）も児童期には行動の誤解が自尊心の低下に、青年期にはパーソナリティーの誤解が精神症状につながり注意を要します。

平成28年、不登校（1ヵ月以上）は全国の小・中学校で約13.4万、高校で4.9万人とされています。京都市学校医会では平成18年（市立中学校80校）に続き平成28年（70校:統廃合で減少）に「学校医の役割」について、アンケート調査を行い10年間の意識変化を追いました。対象は学校医、校長、養護教諭、スクールカウンセラー（SC）。学校長の一番の課題は身体より心の健康・不登校・学習障害等で、学校側はチーム連携で解決することを望んでおられます。学校医・学校長・養護教諭・SCとも心の問題解決に連携が必要であることを認めながら学校側は校医の忙しさに遠慮し、校医も負担増・専門外を嫌う構図でした。心の問題であっても身体についての医学的判断が必要な場合が多く、こころ・脳・からだの問題がどのように関わっているか分析することは重要で学校医の役割とも言えます。担任の先生が、メンタルヘルスの知識を持ち、児童・生徒の様子、普段との違いを観察していただき、教育と医療の接点を担い、学校保健を専門とする養護教諭・保健主事とともに、学校医が参加する保健委員会を学校内の問題の連携・相談窓口にするのがよいと思われれます。学校医の先生方にはぜひとも保健委員会出席をお願いします。

学校における精神保健の介入については、①校内組織（精神保健）の明確化②リーダーは校長③健康問題に発達する以前の早期発見④医療問題が含まれる場合：学校医とコンサルト・医療機関との校外連携体制・校外連携の窓口は養護教諭



発達症の児童・生徒だけでなく、保護者との連携、理解も重要です。「発達障害の可能性がある生徒用アセスメント」を利用して、支援・介入効果を保護者に示すことで状態を共有し、医療支援へつなげたいと思います。（文部科学省「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」参照ください）

今回参加47（医師30、養護教諭等17）名で、多くの学校医・医師の参加がありましたことは、発達症への関心が高いことが伺えます。学校だけでなく、おとなの発達症も社会問題になっています。今後も学校医会として発達症の啓蒙・支援に努力して参りますので皆様のご協力をよろしくをお願いします。

## 第4回 常任理事会

平成30年9月1日 於 事務局

**出席者** 林会長、井本・杉本副会長、山内専務理事、東道・大久保・安野・川勝・西村各常任理事、佐野眼科学校医会副会長、鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事、奥村議長、長村監事

### ・会長挨拶

### <報告事項>

1. 色覚相談 8/7（2名）、8/28（2名）
2. その他 8/28 給食安全衛生委員会 長村監事  
8/20 養護教諭の夏期講習会
  - ・内分泌代謝疾患と学校生活
  - ・小児がんの現状と学校生活
  - ・学校心臓検診の要点

### <協議事項>

1. 「肥満とやせの指導マニュアル」改訂について 養護教育研究会との懇談会の議題  
身体計測結果を肥満・やせを同じ用紙に。

病気の説明は難しいかも。

受診後の報告は管理できるか？ 検査の報告、検査結果値は保護者が書くのは無理かも。最終稿は来年の健診に間に合うように。

教育委員会にはデータで送る予定。冊子にするかは教育委員会に一任。各学校医に配布。

2. 新年会日程について 2019年1月12日（土）
3. 平成30年度ご勇退者について 2名
4. その他 学校医会のパソコンがお盆前に故障。復旧不能にて新規購入した。運動器検診 今年度の報告

### <関連学会・各種協議>

1. 養護教育研究会との懇談会 9/1 17:30～  
於：龍のひげ
2. 精神衛生研究会 9/13
3. 京都府予防接種研修会 9/27  
於：京都府医師会館
4. 第5回常任理事会 10/6 14:00～
5. その他